

『素問玄機原病式』素問玄機原病式例の研究

中川 俊之

日本鍼灸研究会

『素問玄機原病式』は金元四大家の一人である劉完素の撰んだ医書である。1154年頃成立した本書は劉完素の最も早期の著作とされ、以後の病證学に多大の影響を与えた。本書の骨子は本文前に記載される「素問玄機原病式例」の五運主病〈肝木、心火、脾土、肺金、腎水〉、六氣為病〈風、熱、湿、火、燥、寒〉の11条であり、本文はこれらの注解となっている。

五運主病

諸風掉眩皆屬於肝。諸痛痒瘡皆屬於心。

諸湿腫滿皆屬於脾。諸氣真鬱皆屬於肺。

諸寒收引皆屬於腎。

六氣為病

〈風〉諸暴強直。支痛^{なん}痲^ん。裏急筋縮。皆屬於風。

〈熱〉諸病喘嘔吐酸。暴注下迫。転筋。小便渾濁。腹張。大鼓之如鼓。癰。疽。瘍。疹。瘤氣。結核。吐下霍乱。瞀鬱。腫脹。鼻塞。衄衄。血溢。血瀉。淋悶。身熱。惡寒戰慄。驚惑。悲笑譫妄。衄衄。血汚。皆屬於熱。

〈湿〉諸瘧項強。積飲。痞隔中滿。霍乱吐下。体重。肘腫。肉如泥按之不起。皆屬於湿。

〈火〉諸熱瞀鬱。痞。冒昧。躁擾狂越。罵詈。驚駭。肘腫。疼痲。氣逆衝上。禁慄如喪神守。噎嘔。瘡瘍。喉痺。耳鳴及聾。嘔涌溢食不下。目昧不明。暴注。目閏瘵暴病暴死。皆屬於火。

〈燥〉諸澁。枯涸乾勁。皴揭。皆屬於燥。

〈寒〉諸病上下所出水液。清冷澄澈。皆屬於寒。

(直線のアンダーラインの箇所は『素問』至真要大論第七十四にも見える字句。波線の箇所は類文)

この11条は劉完素が自序中に述べる「今特に二百七十七字を挙げ、独り一本を為る。名づけて『素問玄機原病式』と曰う。遂げて物に比え象を立て、詳らかに天地の運氣造化自然の理を論ず。注すること二万余言」の277字を指しており、主として、『素問』至真要大論第七十四の「病機十九条」と称される記載を拠り所としている。ただし、そのままの引用は少なく、特に〈燥〉の字句は現行の至真要大論中に存在しない。この部分は他の医書もしくは記載を基としてと思われるが、『素問』『靈樞』『難経』『金匱要略』『傷寒論』などの原典中にはこの字句は見当たらず、「乾」が『素問』陰陽応象大論篇第五及び、六元正紀大論篇第七十一に「風勝則動。熱勝則腫。燥勝則乾。寒勝則浮。濕勝則濡寫。」とあり、「皴揭」が六元正紀大論篇第七十一に「陽明所至。皴揭。」と見える程度である。

五運主病は40字で至真要大論第七十四そのままの引用である。六氣為病は210字で、至真要大論第七十四からの引用は52字(24.7%)、同類文が23字(10.9%)である。六氣為病は135字(64.2%)が至真要大論第七十四には無い。記載の大半が増補されたものである。

本発表では、『素問玄機原病式』の骨子である「素問玄機原病式例」の構造を検討し本書研究の一端としたい。